地域連携型学校防災体制等構築推進事業
学校防災だより 第13号

つなぐ

宮城県涌谷高等学校
令和５年１月31日発行

被災地訪問学習 を行いました！

石巻市震災遺構大川小学校 ～ シーパルピア女川 ～ 門脇・南浜地区

大川小学校での佐藤さんによる案内

大川小学校の裏山に
登ってみました

裏山から見た大川小学校

旧女川交番の見学

12月7日（水）に1年生，12月8日（木）に3年生が被災地訪問学習を行い，震災当時の状況や震災の教訓を学びました。

石巻市震災遺構大川小学校では，大川伝承の会共同代表の佐藤敏郎さんに案内していただきました。「悲しみや恐怖，後悔が，助かる未来のきっかけになれば」「逃げる時間も情報も手段もあったのに救えなかった。『なぜか』を考えて欲しい。そうでないと，児童や先生の命も10年間の日々も無駄になってしまう」というお話をいただきました。

大川小学校を見学し終えた後はシーパルピア女川でそれぞれ昼食をとり，旧女川交番の遺構を見学しました。また，学校までの帰路で，バスの車内からではありましたが石巻南浜津波復興祈念公園や門脇小学校を見学しました。

「大川小学校は『未来を拓く』場所」と佐藤さんはおっしゃっています。もうすぐ東日本大震災発災から12年が経ちます。過去を受け止め，未来に向かっていま自分にできることを考えてみてください。

＜生徒のコメント＞（令和４年度防災学習振り返りシートより一部抜粋）

●学んだこと・気づいたこと・感じたこと

- 今回大川小学校を訪問し，そのときに何があったかを知り，少し怖さを感じました。それと同時に命の尊さ，日頃の訓練の大切さを改めて感じました。話の一つひとつどれもが心に残る言葉でした。自分たちの行動で人の命を助けることができること，あの日を決して忘れてはいけないこと，自分たちはこれから先も伝えていくのが役目であることなど，今回の学習で様々な思いが生まれ，防災意識が高まりました。子どもの言動で周りが動き助かることもあること，思ったら行動する大切さ，自分の命も他人の命も守るための行動をするのが一番良いということを学びました。自分たちはこれからも大川小学校のこと，あの日のことを途切れさせず伝えて生きていこうと感じた一日でした。

- 佐藤さんが震災前の子どもたちの話をしているときにとても楽しそうで，あたたかく感じた。大川小学校は，震災の被害を受けた悲しいところだと思っていたけれど，ここには確かに楽しい思い出がたくさんつまった場所でもあるんだと思った。過去には戻れないけれど，その経験を生かして未来につなげていこうと思った。

- こうして自分たちが生きているという状況は当たり前ではないんだと感じました。これから生活していく上でこの学習で見たもの，感じとったものなどを心に刻んで生活したいです。

秋 季 防 災 訓 練 を行いました！

ー　放課後（部活動中）・地震 想定　ー

頭部保護（机がある場合）

頭部保護（机がない場合）

１１月１６日（水）放課後に秋季防災訓練を行いました。地震想定で，部活動中の生徒など学校に残っている生徒と教職員が参加し，体育館へ避難しました。まず部活動ごとに安否確認を行い，その後クラスごとに安否確認を行いました。災害時は<u>命を守るために臨機応変に行動する</u>ことが大切です。

①揺れている間は頭を守る

机がある場合・ない場合どちらであっても<u>頭部保護</u>をしてください。

②避難場所はグラウンドとは限らない

第一次避難場所はグラウンドとなっていますが，避難場所も臨機応変に対応してください。１２年前の震災発災時は,部活動中で，職員玄関前広場に集まったそうです。

涌谷高校 HP　防災のページ
https://onl.sc/akD3RVJ

涌谷高校 HP
学校防災だより「つなぐ」バックナンバー
https://wakuya-h.myswan.ed.jp/letter

防 災 担 当 ： 津 守